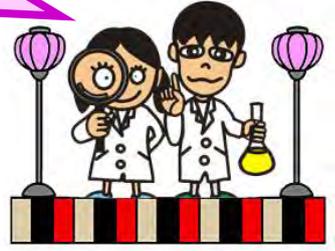
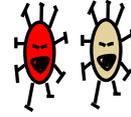
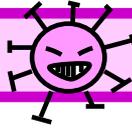


感染症に気をつけよう!

2018年【3月号】

横浜市内の感染症 流行状況

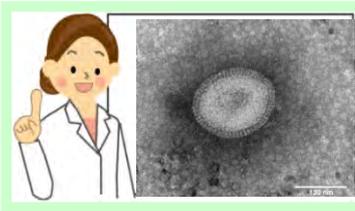


感染症*	流行状況		説明 <small>【解説付き既刊号】</small> ← クリック
インフルエンザ**	警報	減少	2月初めをピークに減少していますが、まだ患者数は多く、 警報レベルが継続中 です。【'18.2号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎*	やや流行	横ばい	例年と比べて、 報告数が多い状態 が続いています。全国的にも同様の傾向です。【'15.3号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



参考ホームページ
 *: 国立感染症研究所
 **: 厚生労働省
 ***: 文部科学省



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(6万倍)
 撮影: 横浜市衛生研究所

2回かかる場合も!



- 例年、流行の初めはA型が多く、遅れてB型が流行しますが、今シーズンはB型の流行が早いです。
- そのため、一度、B型にかかった人がA型にも感染したり、A型とB型の両方に、同時にかかる可能性もあります。

子どもや高齢者は特に!

- インフルエンザによる入院では、10歳未満と70歳以上の報告が多いです。
- 特に子どもや高齢者では、脳症や肺炎など重症化に注意が必要です。
- また、高齢者施設での集団発生が続いています。



正しい手洗い・咳エチケット**を習慣に!

- かったかな?と思ったら、[早めに受診](#)してください。
- 発症後3~7日間は、鼻やのどからウイルスが排出されると言われています。
- 他の人にうつさないためにも、無理をせず、[学校や***仕事は休み](#)ましょう。

